

在宅看護方法論 I Home Care Nursing I

担当教員	林 一美 彦 聖美 子吉 知恵美			
実務経験				
開講年次	3年次前期	単位数	1	授業形態
必修・選択	必修	時間数	15	講義・演習
Keywords	在宅療養者とその家族の生活の理解、在宅生活援助技術			
学習目的・目標	【目的】 在宅看護の対象である在宅療養者・要介護者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護で必要とされる基本的生活援助技術について講義・演習を通して修得できる。 【目標】 1. 在宅看護の展開について理解する。 2. 在宅看護で必要とされる基本的な技術について修得する。			
授業計画・内容				
回	内容			
1	在宅療養者とその家族の生活 ・在宅療養者とその家族の生活状況、家族による介護状況、援助者による援助の状況について理解を深める			
2	在宅看護の展開/在宅における面接技術・観察技術 ・訪問看護の実際、訪問看護制度、在宅における面接技術、在宅における観察・アセスメント (フィジカルアセスメント、服薬管理、急変時看護療養生活の支援)			
3	ケアマネジメント ・ケアマネジメントの定義、在宅ケアシステム、ケアマネジメントの構成要素、社会資源について、ケアマネジメントの展開過程			
4-5	在宅生活援助技術 ・在宅における食・排泄・活動と休息・清潔のアセスメントと援助方法			
6-8	在宅生活援助技術 ・在宅における食・排泄・活動と休息・清潔のアセスメントと援助方法（演習）			
教科書	川越博美他総編集：最新 訪問看護研修テキスト ステップ1-①・② 日本看護協会出版会 木下由美子編著：新版 在宅看護論、医歯薬出版株式会社 鈴木和子・渡辺裕子著：家族看護学－理論と実践－、第4版、日本看護協会出版会、 国民衛生の動向、最新版、厚生統計協会. 訪問看護業務の手引、最新版、社会保険研究所.			
参考図書等				
評価指標	課題レポート・演習の態度25%、定期試験75%			
関連科目	在宅看護学概論・家族看護論・在宅看護方法論II・在宅看護学実習			
教員から学生へのメッセージ	在宅看護方法論Iは、在宅看護関連科目、既習した看護の基本や看護援助の方法を踏まえて、在宅で応用してゆく看護方法を学びます。自学自習を積み重ねながら、在宅特有の看護方法の修得に努めましょう。			